

寺田寅彦全集

第十三卷

寺田寅彦全集 第13卷 (全17卷)

1961年10月7日 第1刷発行◎
1979年2月14日 第7刷発行

¥800

著者 寺田寅彦

発行者 緑川亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋2-5-5
発行所 株式会社 岩波書店
電話 03-265-4111
振替 東京 6-26240

印刷・精興社 製本・青木製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします

日
記
一

目次

明治二十五年	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	七
明治二十六年	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	一四
明治二十九年	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	一七
明治三十一年	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	二四
明治三十二年	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
科学者の日記	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	三一
明治三十三年	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	三三
明治三十四年	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	三五
明治三十五年	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	四五

明治三十六年	．．．．．	六三
明治三十七年	．．．．．	八四
明治三十八年	．．．．．	九三
明治三十九年	．．．．．	一〇五
明治四十一年	．．．．．	一一四
明治四十二年	．．．．．	
西遊紀行	．．．．．	一三三
北歐旅行記	．．．．．	一三六
オーストリアおよびイタリア	．．．．．	一三七
明治四十三年		
オーストリアおよびイタリア (つづき)	．．．．．	一四〇
明治四十四年		

	ロンドン、オックスフォードおよびグラスゴー	一四三
	明治四十五年	一四五
	大正三年	一四八
	大正四年	一五一
	大正五年	一五七
	大正六年	一六七
	大正七年	一七四
	大正八年	一七九
注	解	一八三
後	記	二〇五

明治二十五年

春秋ノ夢

余ガ「オギヤール」ノ一声ト共ニ娵婆ツヤバニ生マレタルハ
明治十一年十一月二十八日ノ事ナリケリ。ソノ生マレ
タル所ハ東ノ都麴町フスマ平河町コウジマチヒラカワチヨウ*トナン言ウ所ニシテ、コ
コニ住スル事一年ニミタズ。父上ハ名古屋鎮台ナゴヤニ転任
シタマイケレバ家族一同引キ連レテソノ任地ニオモム
キタマイヌ。コノ地ニアリテ記憶セルハ庭ノ木ニ登リ
太鼓ヲ打チタル一事ノミ。ココニアル事三年目ノ十二
月、コノ所ヲ発シ土佐トサ(父母ノ生国)ニ向カイ、大阪オオサカニ
至リテ聞ケバ、汽船ニ損所ヲ生ジ航スルアタワズ。
(コノコロハイマダ一隻ノ他船ナカリシナリ)待ツ事

数日、大晦日オオミソカニ当タリ急ニコノ出帆スルヲ聞キ、取ル
モノモ取リアエズ神戸コウベニ至レバマタソノ船損セリ。コ
コニオイテ父上ハ、モハヤイツノ事カ知レザレバトテ
大阪見物ニ行キタモウ。母上ラハ湊川神社ミナトガワニ至リ、キ
ヨウハ元日ナレバトテ雑煮餅ゾウニモチヲ食シタモウ時ニ、マタ
急ニキヨウ午後三時出帆ヲ告グル者アリ。シカルニ父
上ハ大阪ニアリ。イカニ急グトモ午後三時マデニハ間
ニ合ワズ。コノ時県下ノ人弘田貫次郎氏ヒロタカンジロウノ帰ルニ会イ、
コレト共ニ母上ラハ帰県シタマイ、父上ハソノツギノ
船ニテ帰リタマイヌ。

余ガ六歳ノ年、初メニ土佐郡江ノ口エノチ小学校ニ入学シ、
修学スル事四年バカリ、土佐郡第一高等小学校ニ入ル。
コレヨリ先、江ノ口小学校ニアル時、マタ余ガ故郷
ニ至ル。時ニ九歳。ココニアル事半年、父上ハ非職ノ
令下リマサニ帰ラントス。発スルニ先ダツ数日、賊ア
リ窓ヲ破ツテ入り、金貨千円余ソノ他数点ノ衣類ヲ掠カス

メテドロロン。コノ事早クモ警察署ニ急報シ、種々搜索スレドモソノカイナク、一ツモ手掛カリナカリケリ。

カクテ有ルベキニアラザレバ、ツイニ五月六日ニ旅装ヲ備エ、東海道五十三次ヲ下リケル。江ノ島ニ貝ヲ買

イ、七里ガ浜ニ足ヲ疲ラシ、鎌倉ニ至リテハ昔時ヲ思イ、富士ノ麓ニアリテハ白扇倒ニ掛カルノ時ヲ追想

シ、熱海ノ温泉ニ至リテハ天工ノ妙ヲ感ジ、三保ノ松原、荒井ノ長橋、桶狭間ノ古戦場。宇都宮ノ隧道オヨ

ビ十団子。鶴ガ岡ノ八幡。尊氏ノ墓。川ニシテハ大井川、天竜川。名古屋ノ金城。草津ノ姥ガ餅。琵琶ノ湖。

比叡三井寺。弁慶ノ鐘。鍋。瀬多ノ長橋。唐崎ノ松等ソノ他ノ八景ノウチ、京師ノ祇園豆腐。ココハ虎列刺

ガ大アバレナレバ御免御免ト行キ過ギテホドナク大阪へ着キ、ココニテ一休ミ、大阪城ヤ住吉ノ社、浜ベノ

高燈籠ヲ見物シテ、マタモ神戸ニ出発シ、ココニテ乗リシ船ノ名ハ駿河丸トイウ舟ナリキ。ホドナク入ルハ

浦戸港、ココニ待チ居シ別役ノ甥ト対面シ虎病ノ消毒トテ丸山台ニ上陸シ、ココニテソノ法ヲ行ナイ、稲荷新地ヨリ車ニ乗り家ニ帰リケリ。

ソレヨリ格別ノ事モナカリシガ、二十二年ノ末ツ方、無情ノ風ニ誘ワレテ黄客ノ旅ニオモムカレシハ余ガ祖母ニ当タル人ナリキ。ソノ病症ハ俗ニ言ウ中風ニテオワシケリ。時ニ御年七十有四ナリケリ。二十四年ノ末ツ方、尾濃ノ間ニ大地震アリ。山ヲツブシ家ヲ倒シ、人ノ死スル事数ヲ知ラズ。実ニ安政以来未曾有ノ大震トス。

同年十二月ゴロ、千三百五十倍ノ顕微鏡ヲ購求ス。コレヨリ先、八月ゴロヨリ余ハ肺ヲ病ミ、父母ノ心痛ヒトカタナラズ。日々枕モトニアリテ介抱セラレシニハ実ニ感ズルニ余リアリ。コレヨリマスマス親ノ恩ノ深キヲ知ル。

翌年二月ゴロヨリ学校ヲ初ム。五月一日、夕方別役

ト本町へ時計ヲ取りニ行ク。三日、東久万ニ神田植苗ノ式アリ。四日、学校ニアリテ南北戦争ノ快話ヲ聞ク。コノ夜池田君キタリ談話セリ。時ニ浴室ノカタニ当タリ泣ク声アリ。怪シンデコレヲ問エバ下女糸、下男楠八ノ兩人、父上ヲヒソカニ嘲弄セシヲ聞キ父上ノ怒リニ触レシナリ。五日、学校ニテアヘン戦争ノ話ヲ聞ク。コノ日、余ハ熱ヲ発ス。六日、キノウノ病氣断然全治ス。七日、病氣アマリ手ギワ過ギタリト思イ居タリシニ、ハタシテコノ夜マタ発熱ス。コレマラリヤ熱ナリ。九日ノ朝、キニーネヲ用ユ。ソノ功ナクコノ日モマタ発ス。十一日マタ前劑ヲ投ズ。ソノ功アリ、ソノ日ハ発セズ。

五月十五日 日 早朝別役君ヲ訪ウ。机上螢籠アリ。余「モハヤコレモ用立ツベシ」別「モハヤドコロカ、ステニ川田氏ヨリ帰路三匹ヲ得タリ」ト。籠ヲ窺エバ

ソノ言ノゴトシ。余ココニオイテ下ニオリ、草ヲ取り、コレニ入レ、水ヲ注グ。ソレヨリ談話數分ニシテ帰ル。帰途、池田君ヲ訪ウ。時ニ君ハ舟ヲ鱗シ、江ニ漁セントスルトコロニテアリキ。座定マリ談數分、池田君、別役君ニ書ヲ送ル。ソノ文ソノ封酒々落々タリ。コレヲ預カリ家ニ帰り、インキオヨビペンヲ求メント欲シ、金ヲ懐ニシ行ク。途中マタ別役ニ至リ、共ニ行カント請ウ。別「午飯後行クベシ」ト。ココニオイテサキノ池田君ノ戲書ヲイダス。別役一見啞然大笑ス。ソノ返書モマタハナハダ洒落ナリ。余モマタ一書ヲ送ル。ソノ文ノゴトキ、池田君ニ西ノ谷ヨリ竹中皮ノ丞ニ草履大臣ヲ命ズルノ書ヲ依頼スル文ニシテ、ソノ封書ニ至ッテハ「西ノ谷執權職大勲位二品公爵太政大臣池田信頼侯へ、一名クレオパトラト書キシ裏ニハ、時ハイツ、明治千百一十一万一千百一十一年、三十三間堂ノ仏ノ數ガ三ツヘツタ時、オゴロモチノ年ノ初メツ方、西ノ谷紫

宸殿前ニ書ス。藤蘂ノ蔵人」別役君モマタカクノゴト
キ洒落アリ。ソノウチ最モオカシカリシハ「御屁しん」
(御平信)ニテアリキ。時ニ空合イマスマスアシク、颯
乎タル一陣ノ風ト共ニ沛然タル驟雨盃ヲ覆スガゴト
ク(ト言ウホドノ事モナイガ)キタル。余コレニ弱リ込
ミ、インキ等ヲ買イニ行クヲヤム。スデニシテ帰ル帰
途、池田氏、漁ヲヤメテ船具ヲ収ムルニ会イ、サキノ
状ヲ出シコレヲ渡シ「失敬」ノ一声ノウチニ氏ニ別レ
家ニ帰レバ、京師ノ人ニシテ父ノ親友ナル長屋氏キタ
レリ。(コノ雨ニハチヨット二人(池田ト余ト事)志ヲ達スルア
タワズ、他ニモサダメシ困レル人アルベシト家ニ帰レ
バ、余ノ母モ小津神社へオ願ホドキノ帰リニコレニ会
イシトテヌレネズミノゴトクナリテ帰リタマエリ。憎
クキ雨カナアルテ)コノ日ハ日曜ナレバ、サダメシ市
モコノ雨ニハ大騒ギナリシナラン。呵々。コノ雨暫時
ニシテヤム。続カレテハ困ルガ、マズマズシアワセ?

雨晴レタレバトテ池田君ハマタ舟ヲ艤シテ行ク。余モ
マタ市ニ行カントテ別役ニ至リ、相伴ノウテ家ヲ出テ
マズ村岡書店ニ至リ、新定習画帖七ノ下アリヤト問
ウニ無シ。マタココヲ出テ小川書店ニ至ル。ココニモ
無シトテハネツケラレ、ブツブツ小言ヲ言イナガラ仁
尾ニ行キ、ペン三ツヲ求め、ソレヨリ本町市ヲ見物ス。
コノウチモヤハリボツボツト雨ハ降りオレリ。サテサ
テシブトイ阿爺メ(オット)雨メト、ツブヤキナガラ見
物シ、帰り道ニ追手御門ノカタワラニテマタマタ大雨
(コノ夕ビコソホントウノ)ニ出会イ、門内ニ逃ゲ込ミ、
菓子売りノオバサンニ火ヲ借り二三服。コノ時同ジク
コノ門内ニ逃ゲ込ミシモノモ有リシガ、一河ノ流レ一
樹ノ陰、コレラノ人モ多少ノ因縁アリシナラン? 少
時ニシテ雨ダイブ小降りニナリシカバ、ココヲイデ家
ニ帰リケル。(コノ時余ガ近隣ナル井上、衣斐ノ両子
モマタ門内ニ入レリ)コレヨリ久万、川田君ヲ訪ウ。

別役君モマタココニアリ。談話数刻ニシテ帰ル。門ヲ出ルト同時ニマタマターシキリノ雨ニ会イ、シバラクシテ小降りトナリ、家ニ帰りシハ時辰器五時ヲ報ズルコロナリキ。翌朝ヨリハ学校へ行クヲモツテ、モシ、遅刻シテハト思イ、八時半ゴロヨリ床ニツク。夢ヤイズコニ迷ウラン。グー~~~~~ス~~~~~ムニヤ~~~~~

五月十六日 月 ケサハ余ラノ級(四年級*)ノ発火演習ナレバ、雨、雨フルナト、キノウヨリ祈リシカイアリテ、朝ヨリ雲ハ次第ニ薄ラギ、アメリカ、チカゴ府、コロンバス万国大博覧会へ出シタラ、ゴールドメタルヲ得ル事、朝飯前ノオ茶ノ子ジャトイウヨウナ上天気。チトギヨウサン。欣喜雀躍^{キシヤヤクヤク}。天ヲ拝シ地ヲ拝シ、ソノヤメルヲ喜ビケル。(演習ニ行ク者モマタ余ノゴトク天気ヲ祈リシナラン。テリテリ坊主モタクサンアリシ

ナラン)午後二時ゴロ別役君ト共ニ川田兄ノ家ヲ訪ウ。五時ゴロ家ニ帰り后飯ヲ喫シ、別役兄ヲ訪ウ。道ニ池田君ニ会イ共ニ至リ、談数分ニワタリ、別役君ニ演劇ノ話ヲ聞ク。スデニシテ帰ル。コレヨリ先、父上ハ時々胸痛ヲ発シハナハダクルシム。キョウモマタ発スル四度。

五月十七日 火 キョウモモ休ミナレバ例ノネタロウヲ起コシ、午前七時半ゴロ臥床^{ガシヨウ}ヲ出テ飯ヲ食ス。満室ノ蒼蠅^{アオバエ}ハラエドモ去リ難シ。立ッテ蠅打チヲ取ッテコレヲ塵殺ス。(コレコレソレハナンダ。コレハ定禪^{ジョウゼン}ノ詩サ。ハ、ハ、ハ、ハ)コノ朝朝倉^{アサクラ}ノ姉^{*}キタル。午後四時ゴロ中沢君^{ナカザワ}オヨビ池田君キタリ、シバラクシテ別役君モマタキタル。スデニシテ中沢君帰ル。別役君、川田君ヲ訪ワント言ウ。余、夜露ニ当タルト悪イカラトテ行カズ。別役、池田ノ両君行ク。

五月十八日 水 早朝学校ニ行ク。一人モアラズ。

怪シミコレヲ山本先生ニ問ウ。答エテイワク、「キヨウハ銃器ノ手入レヲスルカラ授業ニハナルマイ」ト。

余「先生、私ハペーバーヤソノ他ノミガク道具ヲ持ッテオリマセンカラ休マシテクダサレ」先生「ソレナラオ帰り」家ニ帰り新聞ヲ見ル。第一ニ電光ノゴトク余ノ眼ヲ貫ヌキシハ議会解散セラレントスルノ電報ナリキ。嗚呼悲シイカナ。二期ステニ解散セラレ、マタコノ憂イヲ見ントス。日本男児ノ名アル者アニ切齒慷慨セズシテ可ナランヤ。噫。午後二時ゴロ川田君ヲ訪ウ。少時ニシテ別役君マタキタル。家ニ帰ル。

五月十九日 木曜 コノ日学校ニ至リ、発火演習ノ

状況ヲ聞ク。美濃部君ノ負傷ヲ聞ク。唱歌時間、例ノゴトク先生ヲ困ラシタリ。家ニ帰レバ「日本少年」四

巻十号キタレリ。待チニ待チタル事ナレバ、サツソク披見ス。午後五時ゴロ池田君キタル。コノ日、月謝ヲ收メシナラントコロ、サツパリ失念シ居タリ。(ア〜)〜アスハ二十五銭タタル事カ。チエツイマイマシイ。オットコレハ不都合千万多謝〜)シバラクシテ西森君キタリ、池田君ト碁ヲ囲ム。両虎幽谷ニイドムトキ颯然トシテ風起コリ、双竜深潭ニ戦ウトキ沛然トシテ雲起コル。右ニ当タレバ左ニ避ケ、左ニ払エバ右ニ飛ビ、進退ソノ機ニカナイ、一上一下虚々実々(オット、ナンダカ小説ノ試合ノヨウニナツテキタヨ)勝敗容易ニ決セズ。カクノゴトキ数回、シバラクシテ国沢、別役ノ両君キタル。コノ夜、池田君ト仁尾ニ至ル。池田君、鉛筆二本ヲ求メテ帰ル。

五月二十日 金曜 学校ニテ中ノ浜万次郎ノ話ヲ聞

ク。家ニ帰ルヤ否ヤ池田君キタル。共ニ川田君ヲ訪ウ。

コノ夜、別役、西森、池田ノ三君キタリ、笑談數時。
午後十時ゴロ床ニツク。

五月二十一日 土曜 学校ヨリ帰り飯ヲ喫スルウチ、
別、池田君キタリ、川田ニ至リ、スデニシテ帰ル。父
マタ痛ミヲ発セリ。

五月二十二日 日曜 早朝別役君ト、川田君ヲ訪ウ。
午前十一時ゴロ家ニ帰ル。猪之ガ、「ボウサキ」ヲ切
ツタヨウナトテ詮義ス。コノ夜、川田、池田、別役ノ
三君キタル。

五月二十三日 月 学校ノ体操時間ニ当タリ、西内
先生キタリ、「アナタガタハ自修ヲシテオツテクダサ
レ。山本先生ガ休ンデオルカラ」余ヲ「先生、先生、
体操ノ自修ハドウデスカ」先「監督者ガナイカライカ

ン」生「ソレハ席長ガ監督シマス」先「席長ハ充分ニ
デキルトイウ見込ミデスカ」生「エー」先「ソレナラ、
オヤリ」皆体操場ニ至リ、列ヲ作ラントスレド、虚病
ヲモツテ列ニ加ワラザル者多シ。スナワチ、オニサン
ヲナス。コレモ皆、ワヤニシテ、ダンダン一人ズツヤ
メテ、マタコレモヤメリ。皆タダ、以上グズグズ
ニテ治マラズ。余ヲ四五人、席ニ行キ読書セリ。西内
先生入りキタリ、種々論ジタル後、先生皆ヲ呼ブベシ
ト命ズ。スナワチ下ニ行キ、一同ヲ呼ビキタル。コノ
トキ、退出ノ太鼓、トン／＼／＼／＼／＼／＼／＼。
先生、トドマリオレト命ジ、種々説論セラル。ヒダル
サハヒダルシ、イニタサハイニタシ。電光ノゴトク馳
セ帰り飯ヲ食ス（オ帰りト言ウガ早イカ、イヌルガ早
イカトイウホド）ルウチ別役ノ精、新聞オヨビ本ヲ返
シキタル。スナワチコレニ菓子ヲ与ウ。セイ「アヤ
ト。ゴアーイタ」

明治二十六年*

16th June, Friday In the morning I was wide

awak[e]. Breakfast was over, and read the news-paper, and then I prepare the Text Book in school room. The call, its auther was Mr. K. Nisimori, was heard on the door. I took the book and hat, and go out to the door. "Good morning, Mr. Nisimori," I said. "Yes, good morning, sir" he said.
.....

In the way back, I met with Mr. N. Ikeda and their party. The several legend was taken between us. In this time, horrid roaring, that was a thunder

reached to our ears. O! What frightful we was! Some of us, sprange to their feet and ran away for their home. But our party daring not to confuse, take step slowly, because we knew that our fate not to us, but it belong to Heaven.

28th Wednesday In the school, examination of gymnastic exercise was managed.

Returning to home, I painted a picture of Sakurada Gate of Tokio and go to Betchaku. What remark have he at this picture? It will be in your mind.

Today I bough[t] a sponge, which you may look on my table, and it cost 3 sen. Mr. Nagasawa who are my fathers freined, came, and when I was describing this, he returned.